

各 論 II

天竜川上流の主要な植物群落



ツルヨシ群落



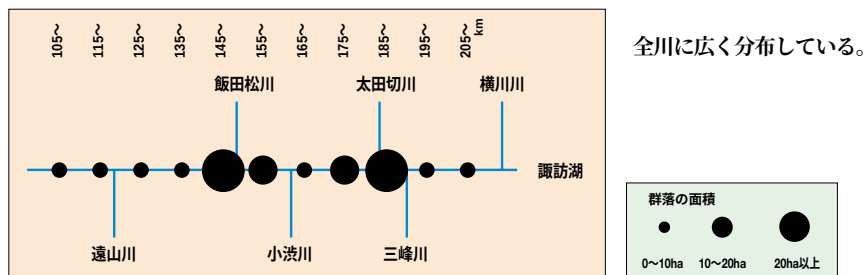
主な群落構成種

ツルヨシ オオイヌタデ カナムグラ クサヨシ

群落の特長

流水辺の砂れき地に分布する。群落高は1～3m程。群落内の生育密度は高く、遠くからは水際が緑の帯にふちどられているように見える。繁殖力はおう盛で、主として地上をほう走出枝（匍枝）により行われる。洪水等により群落が被害を受けても、走出枝の流れ着いた先で定着し、分布を拡大する。類似した群落にヨシ群落があるが、天竜川上流ではほとんど見られない。

天竜川上流における分布状況



セリ・クサヨシ群落



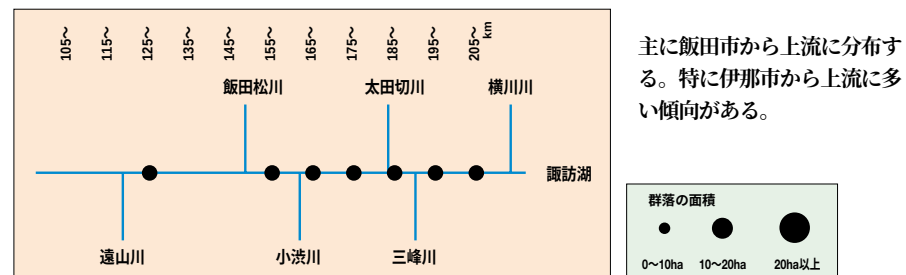
主な群落構成種

クサヨシ セリ ヤナギタデ ツユクサ など

群落の特長

増水の影響の少ない安定した水際に分布する。土壌が富栄養化した場所に比較的多い。群落高は1～1.5m程。クサヨシの開花結実する6月頃もっとも勢いよくなり、その後縮小する。

天竜川上流における分布状況



ガマ群落



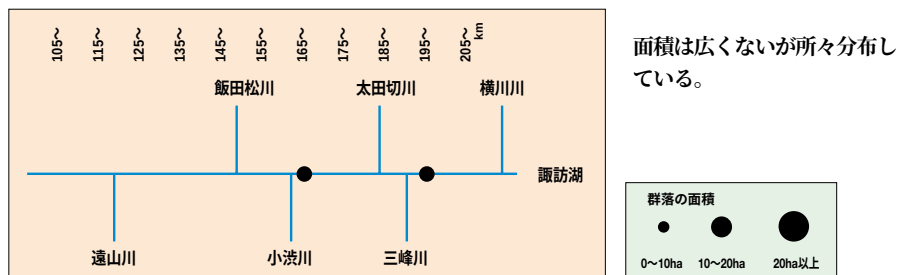
主な群落構成種

ガマ ヨシ クサヨシ ツルヨシ ヤナギタデ など

群落の特長

高水敷内の浅い水湿地や流れの緩い泥底の水際に分布する抽水植物群落。群落高は1～2m程。種子と地下茎により分布を広げるが、主として太い地下茎により繁殖する。^{はんしょく}水位の安定している場所では、魚類の産卵や避難場所としても利用される。

天竜川上流における分布状況



オオイヌタデ群落



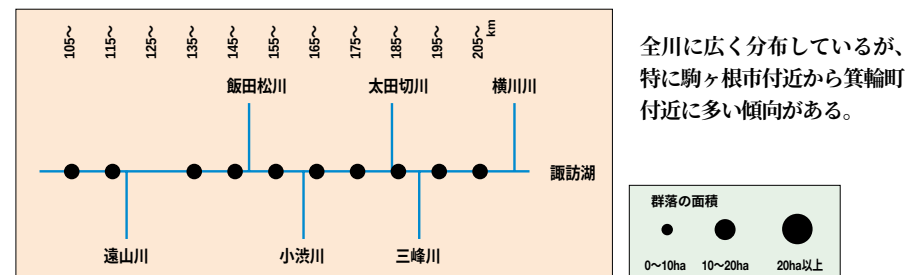
主な群落構成種

オオイヌタデ オオクサキピ イガオナモミ クサヨシ ツルヨシ など

群落の特長

砂や粘土質の土壌で、小さな増水でも冠水^{かんすい}する水際に多い。群落高は1～2m程。密度は高く、花の時期にはピンク～白色に被われる。オオイヌタデの繁殖^{はんしょく}は種子によって行われ、群落の拡大は植物体の周辺に散布される種子のほか、流水により下流にも運ばれる。比較的富栄養化した場所に多いことから、水質や土壌の指標にもなる。

天竜川上流における分布状況



アレチウリ群落



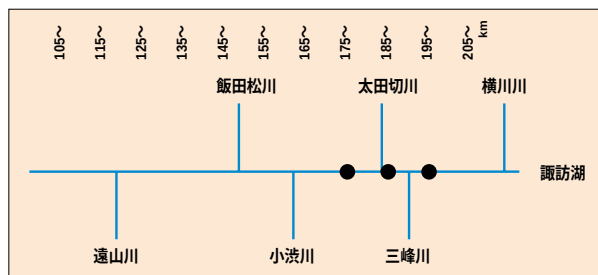
主な群落構成種

アレチウリ 他はからみつ植物によって構成種が異なる

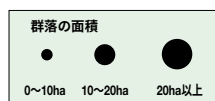
群落の特長

堤防のり面や河川敷などの日当たりのよい荒れ地に生育し、地面が見えなくなるくらい繁茂する。北アメリカ産の帰化植物で1952年に発見、その後全国に広がっている。つるにより他の植物にからみつ、成長を阻害することがあることから害草とされている。繁茂を防ぐためには、生育の早期に刈り取る必要がある。

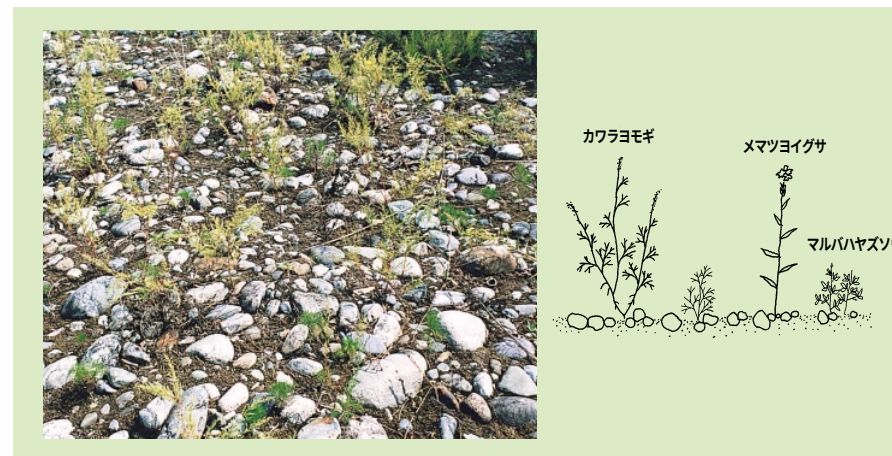
天竜川上流における分布状況



アレチウリは全川で確認されている（各論・種を参照）が、小さな群落のため面積的な数字としてあらわれていない。



カワラヨモギ群落



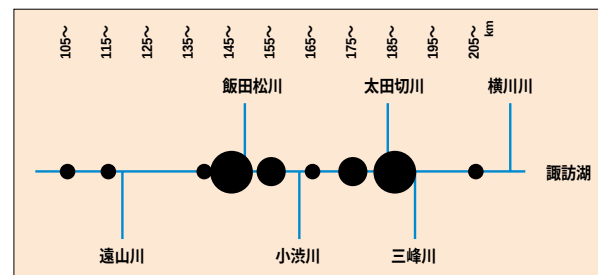
主な群落構成種

カワラヨモギ メマツヨイグサ シロバナシナガワハギ ヨモギ カワラニガナ マルバハヤズソウ マメグンバイナズナ など

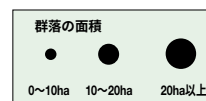
群落の特長

まばらに植物が生育し、上から地面がよく見える。群落の高さは0.5~1.2m程である。水から離れた高水敷の砂と石が混じる乾燥した場所に分布する。増水や洪水などの攪乱が起これば安定すると、ヤナギ類やハリエンジュなどの高木類やオニウシノケサやシナダレスズメガヤなどのイネ科多年生草本類がかわって生育し、カワラヨモギ群落は衰退する。河川環境特有の群落といえる。

天竜川上流における分布状況



全川に分布するが、特に河川幅の広くなる三峰川合流点（伊那市）付近、駒ヶ根市付近、高森町から飯田市にかけては大きな群落が見られる。



カワラヨモギ・カワラサイコ群落



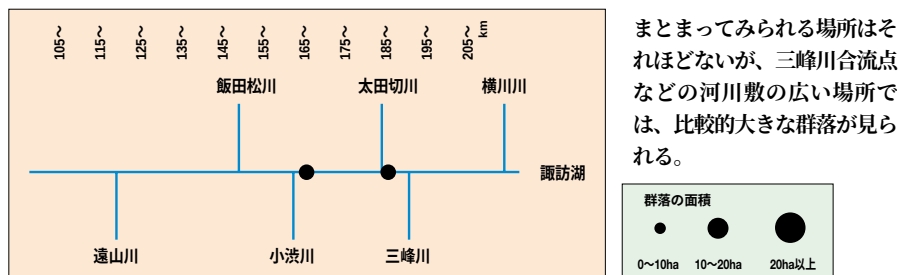
主な群落構成種

カワラサイコ カワラヨモギ カラメドハギ メマツヨイグサ マルパヤハズソウ など

群落の特長

前出のカワラヨモギ群落と同様に、植物はまばらである。群落の高さは0.5～1.2m程である。水から離れた、日当たりのよい乾いた高水敷に分布する。増水や洪水などの攪乱^{かくらん}が起らず川が安定すると、ヤナギ類などの木本類やイネ科の多年生草本類に置き換わり、次第に衰退する。やはり河川環境特有の群落である。

天竜川上流における分布状況



クズ群落



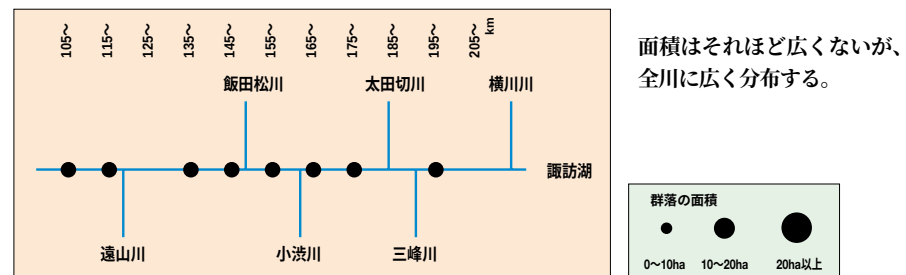
主な群落構成種

クズ アキノノゲシ テリハノイバラ メマツヨイグサ ヨモギ ヒメムカシヨモギ ツルヨシ カナムグラ など

群落の特長

堤防のり面や高水敷などの日当たりのよい乾燥した場所に分布する。種子と根茎により分布を拡大する。群落内にはつるが混み合っており、入り込むと足を取られることもあるので注意が必要である。根茎は太く多量のでんぷん質を含み、葛粉（くずこ）がとれる。イノシシは本種の根を好み、山地では掘り返した跡をよく見かける。

天竜川上流における分布状況



オギ群落



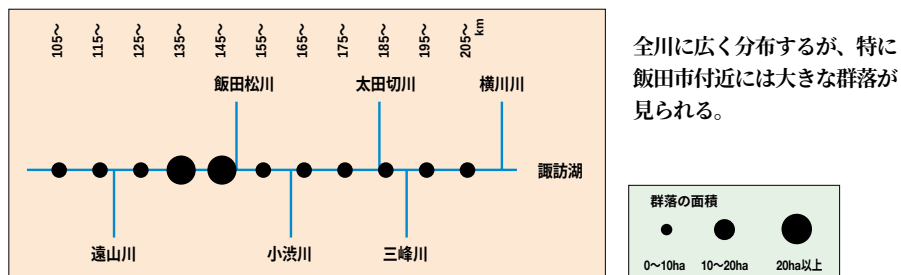
主な群落構成種

オギ など

群落の特長

河川敷内の砂が厚く堆積した微高地に分布し、人の背丈よりも高い草原となる。種子と地下茎により繁殖する。オギ群落の分布する立地は河川敷内では安定していることから、人間にとっても利用しやすい場所であり、駐車場やグラウンド等に変えられてしまうことも多い。群落内はオオヨシキリなどの鳥類やカヤネズミの営巣場所として利用される。

天竜川上流における分布状況



タチヤナギ群落



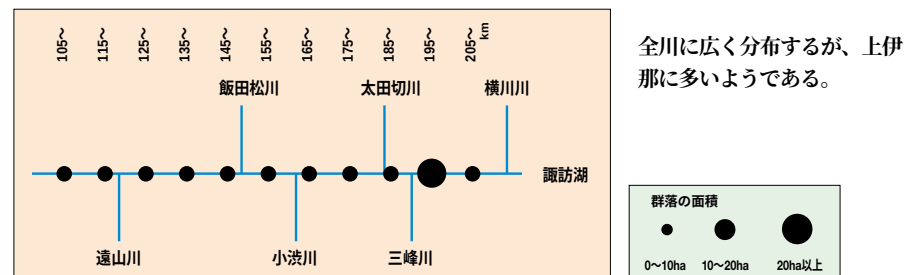
主な群落構成種

タチヤナギ カワヤナギ クサヨシ オノエヤナギ ミズソバ など

群落の特長

樹高は3～6m程になる。細かい砂の混じった粘土質の土壌で、日当たりのよい湿地的な場所に生育する。三峰川合流点より上流や飯田市川路付近では帯状に分布しているのを観察できる。ゴイサギやササゴイなどの鳥類のねぐらや繁殖に利用される。

天竜川上流における分布状況



コメヤナギ群落



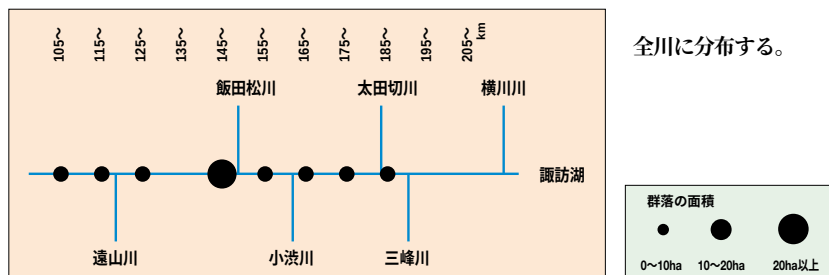
主な群落構成種

コメヤナギ ヨモギ カニツリグサ ツルヨシ ハリエンジュ クサヨシ オニウシノケサ カナムグラ タチヤナギ ビロードスゲ セリ など

群落の特長

日当たりのよい砂れき質の河岸に分布する。樹高は高くなり、高さ20mに達する個体もある。まとまった群落はあまり見られず、島状に点々と分布している。天竜川上流部では比較的多く見られるが、国内の他の地域では少なくなっている群落である。蝶類のコムラサキの幼虫の食樹となり、成虫となっても他の昆虫とともに樹液に集まってくる。

天竜川上流における分布状況



ハリエンジュ群落



主な群落構成種

ハリエンジュ エノキ イチゴツナギ ヤブカンゾウ オオブタクサ オニグルミ など

群落の特長

北アメリカ原産で明治時代初期に輸入された。街路樹や砂防用の樹種として植林され、各地で野生化している。生育場所を選ばず、成長の早い樹木であるため各地で広がり、在来の植物を圧迫している場合もある。

天竜川上流における分布状況

